

日本武道館研修センター開設五十周年記念式典 武道学園〔勝浦分園〕創立五十周年記念演武会 武道振興に半世紀、厳粛に式典挙行



改修工事を終えた研修センターの全景

115名が参列した記念式典

日本武道館研修センターの開設五十周年記念式典と武道学園〔勝浦分園〕の創立五十周年記念演武会が、日本武道館の創立記念日の10月3日、同センター（千葉県勝浦市）で厳粛に行われた。

記念式典・演武会には、来賓・関係者115名が出席。第1部は式典、第2部と第3部はそれぞれ、8月まで実施した研修センターの改修工事と武道学園〔勝浦分園〕50年の歴史を振り返る上映会を行った。当初は武道学園〔勝浦分園〕の生徒による演武会を式典後に企画していたが、コロナ禍により上映会に変更した。

研修センターは、昭和46（1971）年に開設し、今年8月4日に50周年の節目を迎えた。今後も武道修行者に研鑽の場を提供しながら、地域武道の普及・振興に努めていく。

◇

第1部から第3部まで千畳敷の大道場で行い、神前を正面に長さ9メートルの特設ステージを設けた。

第1部の式典開始の正午前には続々と来賓・関係者が集まり、日本武道館の白井日出男理事長が開式の辞を述べて開始した。

日本武道館の高村正彦会長が挨拶を行い、続いて千葉県教育庁教育振興部の鈴木智夫体育課主席指導主事兼学校体育班長が熊谷俊人知事の祝辞を代読した。次に土屋元勝浦市長、松崎栄二同市議会議長、最後に国際武道大学の高見令英学長がそれぞれ祝辞を述べ、来賓紹介、祝電披露と続いた。

第2部と第3部では、特設ステージに向かって左（南側）に縦2・5、横4・5メートルのスクリーンを上映会のために設置。「研修センター未来に残す改修工事の映像」「武道学園〔勝浦分園〕写真と映像で綴る五十年」と題して、それぞれ10分程度の映像が流された。

最後に日本武道館の森英介常任理事が閉式の辞を述べ、記念式典は盛会のうちに終了した。

大道場のロビーには武道学園の生徒41名による「武道学園創立五十周年に寄せて」の書ききメッセー지가掲示された。学園関係者を中心とした出席者は生徒が書いた思い思いのメッセー지를眺め、それぞれに笑みを浮かべていた。

来賓祝辞



高見令英
国際武道大学学長

研修センターは昭和46年の開設以来、日本武道館が目的とする地方武道の普及・振興に尽力され、改めて日々のご努力に敬意を表したいと思います。ご承知の通り、国際武道大学は日本武道館が中心となつて、建学された大学であります。開学したのは昭和59年ですので、もしその時研修センターがなかったら、国際武道大学はこの地にはなかったのかもしれない。

また、昭和61（1986）年に国際武道大学に隣接して日本武道館武道科学研究センターが開所されました。これにより武道の普及・振興、教育、研究を行う施設が整いました。同センターはその後、平成7年（1995）年に国際武

道大学に移管いただきまして、現在は日本武道館のご支援をいただきながら、武道スポーツ科学研究所として武道領域だけでなく、大学におけるスポーツ科学研究を行える施設として運営しております。

また、研修センターの武道学園では、大学の教職員が指導者として関わっております。子どもたちが幼い頃から武道に親しむことが我が国の武道の普及・振興に繋がることに異論を持ちません。我が国の武道のみならず、子どもたちの健全な発達を支えるためにも日本武道館研修センターがますます活発な活動を続けていかれることを祈念いたします。



土屋 元
勝浦市長

日本武道館研修センターは、日本武道館の地方武道館として正力松太郎氏の提唱により昭和43（1968）年に計画され、山口吉暉市長などの市内誘致運動により、昭和46年8月に完成いたしました。50年の歴史を築いてこられた関係者の皆様方のご苦労とご尽力に深く敬意を表し、勝浦市民を代表しまして心より感謝を申し上げます。

貴研修センターはこの歴史のなか、勝浦市を中心に周辺地域や千葉県の武道振興の拠点として武道学園や錬成大会を行い、多くの子どもたちが学び、かけがえない友を獲得し、全国の児童・生徒との交流の機会となりました。ま

た、国際武道文化セミナーでは、訪れた海外の方々が武道精神のみならず、勝浦市を訪れることで多くの文化交流がなされました。本市では研修センターの50年を記念しまして、武道のメッカ・勝浦市をPRするため、10月1日より、職員が率先して挨拶と礼の大切さを実践し、市内全域に広げる運動を推進しています。

結びに、先人が日本武道館研修センターを勝浦市に誘致した熱い思いを受け継いで本市はもちろんのこと、武道を通じた全国の青少年の健全育成のための研修の場として広く利用されることを強く望みます。地方武道振興の拠点として、ますますのご発展をお祈りいたします。

主催者挨拶



高村正彦
日本武道館会長

日本武道館研修センター開設五十周年記念式典が執行できますことを心から喜んでおります。日本武道館は、その目的の一つに地方武道館の設置・運営があり、本研修センターは、当財団が直営する地方武道館の第1号としてこの地に開設しました。その後、全国で武道館建設の機運が高まり、令和3年4月までに全47都道府県に武道館が設置され、地方の武道振興の拠点として活動しております。

また、研修センターは、昭和59（1984）年4月に開学した国際武道大学誕生の契機となった施設でもあります。研修センターが50年の確かな歩みを成し得たのも、日本武道館の正力松太郎初代会長など、歴代役員・職員、そして建設を提唱した山口吉暉元勝浦市長をはじめ、関係諸氏のご尽力の賜物であり、深く敬意と感謝を申し上げます。今後とも日本武道館研修センターは、武道振興事業の推進と良質な合宿環境を提供してまいりますので、なお一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

閉式の辞



森 英介
日本武道館常任理事

開式の辞



白井日出男
日本武道館理事長



国歌斉唱



お祝いの辞



◎三池真幸全日本弓道連盟事務局次長
「日本武道館研修センター開設50周年、誠におめでとうございます。」

50周年を迎えられるにあたり、通信設備や空調設備の設置など、施設のさらなる充実が図られました。利便性が向上し、これからの研修がさらに素晴らしい成果を上げられることは間違いありません。ご尽力いただきました関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

今後各道の修練の場として研修センターが活用されますことを期待いたしますとともに、貴財団のますますの発展をご祈念いたします」

◎南和文日本相撲連盟会長
「さまざまな研修会で利用させていただいており、大変感謝しております。50周年を迎えられ、その間に武道指導者の育成という点で大変貢献されたことと思います。このような施設が重要であると改めて認識しております」

◎吉井美恵子全日本なぎなた連盟専務理事
「50周年おめでとうございます。研

修センターは私が若い頃から利用させていただいております。日本武道館は指導者研修をはじめ、学生や教員のための研修会など、永年にわたってご支援いただいております、多くの指導者がここから育ったように思っております。これからもますます研修センターを利用させていただき、次世代の指導者を育てて武道の発展に寄与していきたいです」

◎鈴木健全日本銃剣道連盟副会長

「毎年、5月の銃剣道・短剣道青少年指導者講習会、11月の全国銃剣道指導者研修会、そして1月のA級審判員審査会と銃剣道・短剣道八段審査会を研修センターで実施しております、いずれも地域で中心となる指導者や競技者の交流の場として、また、研鑽の場として活用させていただいております。50周年を迎えるにあたってコロナ禍でもこのように盛大に式典を開催できることは意義あることと思います。これからもますます発展されることを願っております」

來賓祝辭



本市における研修センターは、国際武道大学とともに、武道を通じた交流の拠点として、青少年の健全育成や生涯スポーツなどが推進され、地域の活性化になくはならない存在であります。急激な少子化、人口減に悩む本市ではありますが、市議会としても貴重な施設である研修センターを支え、皆さんと一体となつて、魅力ある勝浦市の創出に尽力してまいりたいと考えております。



貴センターは昭和46年に本県勝浦市に開設されて以来、武道を通し、千葉県下の青少年の健全育成に大きな業績を残されてきました。この間、貴センターの発展に献身的なご努力をされ、今日の隆盛を築かれました関係各位に対し、深く敬意を表します。貴センターの役割は平成24年度からの中学校武道必修化など、学校教育においてもますます重要になっております。今後とも武道の普及と振興を通じた本県の魅力ある社会づくりに向け、ご支援をお願いいたします。（※熊合俊人知事祝辞代読）



日本武道館研修センター50年の歩み



開設40周年記念「武道演武会」(平成23年)



開設40周年記念事業「武道体験教室」(平成23年)



宿泊者数が100万人達成(平成30年)



開館30周年「記念式典」(平成13年)



相撲道場の竣工式(平成11年)



昭和天皇・香淳皇后が研修センターにお立ち寄り(昭和48年)



研修センター竣工式・落成式(昭和46年)



第1回青少年武道錬成大会(昭和46年)



日本武道館研修センター竣工(昭和46年)

令和3年 (2021)	令和2年 (2020)	平成31年 (2019)	平成30年 (2018)	平成29年 (2017)	平成28年 (2016)	平成27年 (2015)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成21年 (2009)	平成13年 (2001)	平成11年 (1999)
10月3日	3月	12月	3月	5月	6月	7月	10月1日	3月	12月	7月	11月	2月
8月	5月	3月	3月	5月	6月	7月	10月1日	3月	12月	7月	11月	2月
10月3日	3月	12月	3月	5月	6月	7月	10月1日	3月	12月	7月	11月	2月
開設50周年「記念式典」を挙行	浄化槽更新、大道場大屋根および外壁改修工事完了	館内案内掲示板を刷新	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化	客室通路に無料Wi-Fiを設置、客室で利用可能。テレビ・エアコンを無料化

昭和42年 (1967)	昭和43年 (1968)	昭和44年 (1969)	昭和45年 (1970)	昭和46年 (1971)	昭和48年 (1973)	昭和52年 (1977)	昭和55年 (1980)	昭和61年 (1986)	昭和63年 (1988)	平成3年 (1991)	平成4年 (1992)	平成7年 (1995)
4月	5月30日	7月	3月	4月1日	6月16日	8月4日	8月6日	8月17日	8月25日	8月28日	8月30日	12月25日
山口吉暉勝浦市長が日本武道館勝浦分館の誘致活動を開始	地鎮祭を挙行。敷地造成に着手、8月2日に2万1450㎡の整地が完了	勝浦市から「日本武道館勝浦分館誘致に関する陳述書」を受理	勝浦市に地方分館第1号として建設が決定	勝浦市と土地賃貸契約書(無償貸与)を締結	関係者約150名が出席し、起工式を挙行	竣工式を挙行。赤城宗徳理事長をはじめとする武道館役員、文部大臣、中央・地方の政財界、官庁、武道界から約300名が出席。修祓式、落成式に続き、武道始めの儀、記念祝賀パーティーを盛大に開催	利用第1号として文部省、全日本なぎなた連盟主催の昭和46年度全国なぎなた指導者講習会を実施	初の財団主催武道行事として第6回全国高校武道合宿錬成大会(柔道・剣道)を200余名の参加を得て開催	旅館業経営許可を取得	第1回青少年武道錬成大会(現・千葉県青少年少女武道錬成大会)を開催。小・中・高校生約1500名が参加	天皇・皇后両陛下が千葉県国体ご視察の折に勝浦市を訪問。研修センターでご休憩	研修室が完成
7人立ちの弓道場が完成	大道場床全面を張り替え	新規主催武道振興事業として千葉県高等学校柔道・剣道・空手道(宿泊)錬成大会を開催	開館20周年を記念し関係者に記念品を贈呈	施設設備利用規程を制定	4階男女浴室を研修室に改修							